

製品名: DBC 1 ウサギモノクローナル抗体**カタログ番号: AMRe85492**

研究使用のみ

概要

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC,IP
反応性	人間
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	-
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	0.05% アジ化ナトリウム、0.05% 保護タンパク質、50% グリセロールを含む TBS で精製された抗体。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:1000,IHC 1:50-1:100,ICC 1:50-1:200,IP 1:10-1:20
分子量	Calculated MW: 103 kDa; Observed MW: 130 kDa

抗原情報

遺伝子名	DBC 1
別名	DBC1; DBC-1; NET35; p30DBC; p30 DBC; KIAA1967
遺伝子 ID	57805.0
SwissProt ID	Q8N163
免疫原	ヒト DBC-1 の合成ペプチド

背景

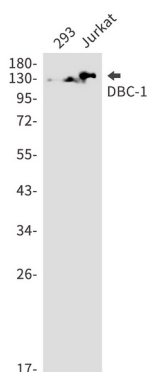
DBIRD 複合体の中核成分。この複合体は、コア mRNP 粒子と RNA ポリメラーゼ II (RNAPII) とのインターフェースで作用し、転写

産物の伸長と選択的スプライシングの調節を統合する多タンパク質複合体である。DBIRD 複合体は、(A + T) リッチ DNA 領域に埋め込まれた多数のエクソンの局所的な転写産物伸長速度と選択的スプライシングに影響を及ぼします。SIRT1 デアセチラーゼ活性を阻害し、p53/TP53 アセチル化および p53 媒介アポトーシスのレベルを上昇させます。SUV39H1 メチルトランスフェラーゼ活性を阻害します。ヒストン H3 特異的メチルトランスフェラーゼ複合体の一部として、核ホルモン受容体によるリガンド依存性転写活性化を媒介する可能性があります。UV 誘発性遺伝毒性ストレス後のゲノム安定性と細胞完全性の維持に重要な役割を果たします。コア時計成分 NR1D1 および ARNTL/BMAL1 の概日発現を制御します。NR1D1 のユビキチン化とそれに続く分解を阻害することで NR1D1 タンパク質レベルを安定化させ、NR1D1 の転写抑制活性を増強する (PubMed:18235501、PubMed:18235502、PubMed:19131338、PubMed:19218236、PubMed:22446626、PubMed:23352644、PubMed:23398316)。ESR2 のリガンド依存性転写活性化機能を抑制 (PubMed:20074560)。少なくとも部分的に NR1D1 と SIRT1 の両方が関与するメカニズムにより、PCK1 発現および糖新生の調節因子として作用する (PubMed:24415752)。HDAC3 の脱アセチル化酵素活性を負に制御し、その細胞内局在を変化させる (PubMed:21030595)。β-カテニン経路 (標準的な Wnt シグナル伝達経路) を正に制御し、MCC を介した β-カテニン経路の抑制に必要である (PubMed:24824780)。NR1H2 および NR1H3 のリガンド依存性転写活性化機能を抑制し、SIRT1 と NR1H3 の相互作用を阻害する (PubMed:25661920)。p53/TP53 の制御を介して腫瘍抑制に重要な役割を果たし、ユビキチンリガーゼ MDM2 との相互作用に影響を与えることで p53/TP53 を安定化させる (PubMed:25732823)。BRCA1 の転写活性化因子活性を抑制する (PubMed:20160719)。CHEK2 および PSEM3 依存的に SIRT1 を阻害し、in vitro で CHEK2 の活性を阻害します (PubMed:25361978)。

研究分野

アポトーシス、Wnt シグナル伝達経路

画像データ



DBC 1 抗体を使用した 293 Jurkat 溶解物中の DBC1 のウエスタン プロット分析。